

ワールド ウッド トレンド

No. 4, 26 APRIL 2017

ベトナムの林業と木材産業の最近の動向

1. 2016 年上半期の丸太伐採約 100 万 m³

2016 年上半期に、ベトナムは集中した商用植林地から 830 万 m³、そして、点在する林から約 100 万 m³ の丸太を伐採し、合わせて前年同期と比較して 22% 増加した。ちなみに、2016 年の年間伐採予定は 1,400 万 m³ にのぼる。

なお、報告によれば、2016 年上半期における新規に植林された商業植林地は 73,002ha、分散植林は 1,490 万本、荒廃林の自然復活促進は 274,774ha となっている。

2. 2016 年上半期の木材及び木材製品の輸出額 33 億米ドル超

2016 年上半期における木材及び木材製品の輸出額は 33 億 2,500 万米ドルで、前年同期と比べて 3.7% 増加しているが、2000 年以来維持していた年間伸び率 10~15% と比べて最低であると見られる。

3. 自然林伐採の一時停止

森林保護と中央高地の発展に関する最近の会議において、新首相は森林転用と自然林の伐採の禁止、そして、地域産天然木材を使った工場を全て閉鎖するよう断固とした指示を出した。今後、地元の自然林の木材は違法な資源として扱われる。

4. 森林認証の推進

ヨーロッパのバイヤーらは認証材を強く求め、ベトナムに 2017 年の初めから 100% 認証材を使うよう要望したため、森林認証はさらに加速された。多くの木材加工業者や貿易会社は認証を得るため、樹木生産農家やグループ、地元の植林企業とパートナーシップを結ぶことを急いでいる。国家森林総局 (VNFOREST)

によると現在、植林地のたった 2.9%、自然林の 2.34%、合わせて約 20 万 ha しか FSC 認証を取っていないということだ。ベトナムの森林部門は、2020 年までに 50 万 ha の認証林を持つことを目標にしている。この意欲的な目標を果たすために、国の SFM 基準や国際的に承認されている SFM の要件と調和する基準を入念に作り上げること、国家森林認証協議会の設置、森林所有者と木材加工業者との協力促進、そして PEFC 森林認証の導入などを含む行動計画が練られている。

5. 森林環境サービスに対する支払い (PFES) の更なる進展

最近付け加えられた、省の森林保護と発展基金 (FPDF) とともに、ベトナムでは全部で 41 の、省レベル FPDF が運営されている。2016 年 6 月 30 日までに森林環境サービスへの支払い (PFES) を通じて総額 5,185 億ベトナムドン (約 2,500 万米ドル) が集められ、前年同期に集められた金額の 93% である。これに、昨年支払われなかった分の PFES 715 億ベトナムドンが加えられた。この集められたお金は各地の流域で森林保護に従事している人々に配られることになる。

6. ベトナム EU 間の FLEGT/VPA 交渉の妥結見込

ベトナム EU 間の FLEGT/VPA (自主的二者間協定) 交渉は 2010 年 11 月にスタートした。ベトナム国家森林総局によれば、合意が期待される主要部分の多く (①木材の合法性の定義、②輸出免許は、船舶に対して与えられるのではなく、両者承認の会社分類システムに基づいて、ふさわしいとされた会社・個人に付与される、③ベトナムの木材合法保証システム (TLAS) について等) は、すでに両者間で承認されている。輸入木材の原産地証明や、森林法施行・ガバナンス・貿易 (FLEGT) ライセンスの手続きについては、両者の意見が相違のまま決着がついていないが、2016 年末での交渉最終ラウンドで合意に至り、締結の見込みとなると思われる。

7. イギリスの EU 離脱とベトナムの木材製品輸出に及ぼす影響

インドネシア、マレーシアとともにベトナムは、イギリスに木材製品を輸出している上位 3ヶ国のひとつである。毎年、ベトナムから EU へ輸出しているベトナム木材製品の 35~36% を、イギリスが占めている。近年イギリスへの輸出は伸びる傾向にある。イギリスの EU 離脱は UK ポンドの購買力を弱め、イギリス国内のみならずその他 EU 諸国においても、住宅産業や家具の購買にマイナスの影響を与えるかもしれない。

8. ウッドチップ輸出の急減

2015年のウッドチップ輸出は、810万絶乾トン（BDT）（丸太1,620万m³相当）を輸出、木材と木材製品の輸出額の17%を占める12億米ドルに達している。ウッドチップは、ベトナムにとって主な輸出商品になった。

しかし、2016年1-5月のウッドチップの輸出は180万BDT（前年同期比61%）、2億4,800万米ドルであった。この傾向が続けばウッドチップ輸出額はたった5億米ドルにしかならない見込みだ。それは前年の輸出の50%にも満たない。この落ち込みはウッドチップ輸出業者だけでなく、産業植林ビジネスに従事している貧しい農家の多くにマイナスの影響を与えるだろう。2016年、ウッドチップの価格はほぼ145米ドル/BDTだったが、今年は大体132米ドル/BDTである。

ウッドチップの輸出低迷の主な原因は、ベトナム産ウッドチップの50%以上を買い入れている中国市場に、大きく依存していることにありと考えられる。短期的には、このウッドチップ輸出の急激な落ち込みにより、木材製品輸出の今まで継続していた成長率は著しく減速するかもしれない。しかし長期的には、大規模な木材生産を促進し、川下の製材、家具製造産業を大きく育て、今よりも付加価値のある森林部門への転換強化に繋がっていくかもしれない。

9. ひん死常態の木質バイオマスペレット業界

ベトナムには2010～2014年の間に、年間総生産能力100万トンのペレット工場が約120カ所設立された。

原料の大部分は森林農業の残渣/くず（^{まんま}わら、もみ殻、落花生の殻、トウモロコシの穂軸、おがくず、かんなくず、木くず、木の枝、木の皮、竹のくず等）、供給量は豊富だが供給元が分散しているため収集と輸送にお金がかかる。

ペレットの本格的な生産が2000年にスタートして以来、2008～2014年には、韓国への輸出が大幅に増加した（1億2千万米ドル）。2015年からは韓国市場の衰退により低迷している。現在はいくつかの工場が、国内向け用途（調理、染色・織物、食品加工、製紙、スイミングプール等）としてビッグペレット（直径7～9センチの円柱型で長さ5～25センチ）を生産しているのみである。

（本文は現地レポートを基に編集したもの）